

登録コード	UAC34500	開講年度	2026				
授業題目	中国文学研究Ⅱ				担当教員	氏岡 真士	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学， 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。	
(2)授業の概要	担当教員は白居易（白楽天）の代表的な古典文（散文）を、受講生とともに講読する。講読対象は白居易の代表的な作品から彼の人生の転機に書かれ、彼の文学観を知る上でも重要な「元九（＝元ジン）に与ふる書」をとりあげ、日本の漢文学にも影響を与えたこの作品の内容や特徴はもちろん、中国古典文法や語彙あるいは韻律等について日本語との相違にも注意を促す。						
(3)授業計画	第1回： ガイダンス 第2回： 「与元九書」（巻四十五第一葉） 第3回： 「与元九書」（巻四十五第二葉） 第4回： 「与元九書」（巻四十五第三葉） 第5回： 「与元九書」（巻四十五第四葉） 第6回： 「与元九書」（巻四十五第五葉） 第7回： 「与元九書」（巻四十五第六葉） 第8回： 「与元九書」（巻四十五第七葉） 第9回： 「与元九書」（巻四十五第八葉） 第10回： 「与元九書」（巻四十五第九葉） 第11回： 「与元九書」（巻四十五第十葉） 第12回： 「与元九書」（巻四十五第十一葉） 第13回： 「与元九書」（巻四十五第十二葉） 第14回： 「与元九書」（巻四十五第十三葉） 第15回： まとめ 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	受講生にはテキストに関する資料作成と討論への積極的な発言を求めて理解度を測り、提出資料（50%）と授業時の取り組み（50%）とを総合して判定する。得点率による評価基準は； 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	上記の観点に即して、理解度が卓越していれば秀。 理解度がかなり上にあれば優。 理解度がやや上にあれば良。 理解度が一定の水準にあれば可。 最低限の理解度が認められなければ不可。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習として資料を作成し、授業を踏まえて次の資料作成に生かすことが事後学習となる。						
(7)履修上の注意	テキストについては、中国語による読解も認める。						
(8)質問,相談への対応	授業中に紹介する。						
【教科書】	『白氏長慶集』（『和刻本漢詩集成（唐詩）』第九輯、汲古書院、1974年）						
【参考書】	川合康三『白楽天』（岩波書店、2010年）。 他にも随時、紹介する。						